

R4年度KBDP コミュニティエントリ状況 (0526時点)

番号	提案団体名	種別	TYPE別	募集テーマ区分	取組概要	スケジュール	担当者連絡先
01-1	京都府政策企画部	コミュニティ	A.特定テーマに関する事例研究	11.その他(スマートシティ)	XR(VR/AR/MR/SR)やAIの技術、メタバース等の活用について、企業、学校(学生)、行政の交流を通じて、それぞれの活動に対してシナジー効果や新規価値創造を目指す。Virtual X-formation (VX) 推進コミュニティを創設。 ・参加者で課題、相談事について議論、解決への取組 ・プラットフォーム内の他WG活動との連携 ・補助金事業への提案 ・有識者を招いた基調講演や勉強会	1年 ・3ヶ月に1度ペースでの課題・相談ワークショップ ・不定期での講演会 ・コミュニティ内個々の活動は随時(メタバースオープンスペース)	【役職】企画参事 【氏名】吉岡 信吾 【電話番号】 075-414-5675 【メールアドレス】 s-yoshioka08@pref.kyoto.lg.jp
01-2	鈴田峠農園有限会社	コミュニティ	A.特定テーマに関する事例研究	3.環境、8.行政サービス、11.その他(スマートシティ)	地球温暖化に伴う気候変動による被害は年々深刻化しており、対策としてカーボンニュートラルは世界的なテーマである。植物によるヒートアイランド緩和とCO2吸収は明らか。しかし京都府など既存の都市に巨大な緑化の設置は容易でない。鈴田峠農園が開発したパッションフルーツの暑熱対策は、短期間で広い木陰を作る技術であり、大気中のCO2をセルロースノファイバーで吸収貯蔵する。また一般の市民もパッションフルーツを育てることが可能であり、パッションフルーツの育て方教室は市民に好評である。このパッションフルーツの育て方教室を全国に普及させ、市民参加型の地球温暖化防止事業として、アプリ等のデジタル技術を組み合わせ、世界に通用するビジネスモデルを共に検討してくれる企業を募り、持続可能な実施体制モデルを検討したい。 (一得的には実証・事業化WGに移行することも見据えて)	1年 (6月WG開始、7月～9月パッションフルーツの育て方教室実施、10月～12月ビジネスモデルの検討、1月WG)	【役職】代表取締役 【氏名】 富麻謙二 【電話番号】 090-3016-2243 【メールアドレス】 suzuta@lime.ocn.ne.jp
01-3	京都府立大学	コミュニティ	A.特定テーマに関する事例研究	2.健康/医療、5.農林、11.その他(スマートシティ)	世界人口の爆発的増加や気候変動等を背景にした食料安全保障に対する不安、人生100年時における健康維持増進への希求といった社会課題を踏まえ、食料生産とフードテック分野の研究開発、投資、社会実装を加速化することが求められている。 京都府立大学精華キャンパスのシーズを軸に、必要に応じて、けいはんな学研都市の特徴的な研究シーズを重層化し、食を通じた高いQoL実現に向けて、機能性農産物・食品や代替タンパクの開発、食の長期技術開発、食料・飼料としての昆虫の活用など、食の未来を拓く技術の情報交換を進めるとともに、産学共同研究を組成・推進する。	1年 (6月WG開始、8月情報交換会、9月共同研究開発意向調査、11月ニーズ・シームズマッチングイベント、3月技術セミナー・産学交流会開催)	【役職】リサーチアドミニストレータ 【氏名】 森田 芳文 【電話番号】 075-703-5356 【メールアドレス】 ymorita@kpu.ac.jp
01-4	京都府循環社会推進課	コミュニティ	B.特定課題に関する情報交換	3.環境	資源循環ビジネスの創出においては、多様な主体が情報を共有することで環境性と経済合理性を両立させることが望まれる。ここで、資源循環において先進的な取り組みを行う企業等のノウハウやアイデアを共有し、さらにIT技術等の知見を取り入れることで、新たな資源循環ビジネスの創出に繋げる場としたい。共に検討してくれる企業、団体、自治体等を募り、事例収集・意見交換を通じ、府内における持続可能な資源循環ビジネスの普及・拡大を目指したい。	1年 (7月コミュニティ開始・セミナー開催、8月～情報交換)	【役職】 技師 【氏名】 星野 宏太郎 【電話番号】 075 414 4717 【メールアドレス】 k-hoshino81@pref.kyoto.lg.jp
01-5	亀岡市 亀岡商工会議所 京都先端科学大学	コミュニティ	B.特定課題に関する情報交換	11.その他(研究・開発)	亀岡市では、地域経済を支える産業を育成するため、亀岡商工会議所と京都先端科学大学(I-Innovation HUB 地域オープンイノベーション拠点)と、産学・産産連携による課題解決、実証実験を行う拠点となる「オープンイノベーションセンター・亀岡」を開設し、センター開設までにEVやスマートアグリ等をテーマに課題解決に取り組む。 なお、地域の企業のほか、亀岡市、京都先端科学大学のネットワークを活用し、研究機関や大手メーカー等の参加も募り参画いただきながら、センターを持続可能な体制を構築する。	令和4年度 ※オープンイノベーションセンター・亀岡が運用開始以降は定めたテーマに絞って実証に移行する	【所属】 亀岡市商工観光課 【役職】 主幹 【氏名】 谷 健太 【電話番号】 0 7 7 1 - 2 5 - 0 3 3 【メールアドレス】 mono-sangyou@city.kameoka.lg.jp
01-6	株式会社ジザイめっけ	コミュニティ	B.特定課題に関する情報交換	1.観光、11.その他(スマートシティ)	コロナ禍で過出が過ぎず、身近な地域への関心が高まった。目を向けること、長年住んでいても知らなかった魅力を見直すことも多い。裏を返せば、事業者サイドとしては、あの手この手で地域や自店舗の情報発信・イベントやセールなどを実施しているが、近くにいる本当に届けたい人に届けられているのか?さらには、その方々のニーズを本当に把握できているのか?本コミュニティでは、上記問いに対して、情報の流通・ニーズの把握・ニーズに対する施策(オフラインも含めて)の検討一実行を効率的に実現する仕組みに関して、情報交換を行いたい。 (一得的には実証・事業化WGに移行することも見据えて)	半年 (7月開始、7-8月課題の整理、9-10月マーケティング、11-12月今後についての議論)	【所属】 株式会社ジザイめっけ 【役職】 シニアマネージャー 【氏名】 園分宏樹 【電話番号】 080-4110-3555 【メールアドレス】 kokubu@zy-meqqe.co.jp

R4年度KBDP 実証・事業化WGエントリ状況 (0526時点)

番号	提案団体名	種別	TYPE別	募集テーマ区分	WG組成理由	取組概要	スケジュール	担当者連絡先
02-1	NTTコミュニケーションズ株式会社	実証・事業化WG 【※昨年のスマート街区WG継続】	TYPE 3 (民一民)	11.その他(スマートシティ)	弊社にて民間企業や自治体のデータ収集・活用を支援するデータ活用プラットフォームを開発。Withコロナ/Afterコロナ時代には、データに基づく安心安全の確保とマーケティング利用の両立が必要と想定しており、その適応には複数企業の技術を組み合わせたソリューション開発が必要。WG組成により企業間連携の促進と、ソリューション開発、実フィールドで実証実験を通じて、実績構築と販路拡大を目指したい。	昨今のコロナ蔓延を受け、民間企業が運営するオフィス・商業施設や自治体の公共施設等において、混雑回避による利用者の安心安全を確保しながらも、さらなる収益拡大や住民サービスの向上が必要となっている。これら複合ニーズへ対応するソリューションを企業間連携により開発、提供したい。 ・令和3年度：スマート街区WGを組成。安心安全の確保を目的に、施設内の人流とCO2濃度を測定してサイネージに密着状態を表示する試作ソリューションを開発。京都リサーチパークをフィールドに実証実験を実施。令和4年度：同ソリューションをベースにして、マーケティング活用を目的に、人流測定機能の拡張と施設利用者個人がデータを活用できる機能を追加開発。同フィールドで実証実験を実施予定。	1年 (2022年4月WG開始、4～6月実証実験計画策定/準備、7～9月実証実験/プロモーション、10月以降販売促進活動)	【役職】 主査 【氏名】 伊藤 大樹 【電話番号】 050-3813-0760 【メールアドレス】 dito@ntt.com
02-2	日本生物高分子学会	実証・事業化WG 【※昨年の感染症対策SCPWG継続】	TYPE 3 (民一民)	10.感染症対策	前年度に開発した感染症対策アプリの基本システムをもとに、分野毎のフィールドでさまざまな検証して高度化を図りサービス実装を目指す。 A.分野・業態別のフィールドワーク(実証実験) B.各種業態・業務に対応した感染症対策に基づく、パワフル方式活用のBCP/SCP検討	昨今、コロナ収束の兆しが未だ見えない中、人と人が集まる会議やイベントなどへの制限の解除が進まず、経済的な機会損失が依然として継続している。これらへの対策として、当ワーキンググループではDXを強力に推進し、参画する個人のPCRや抗原検査情報を中心に、ビッグデータやさまざまな最新の知見を有効に生かしてアプリと連動させ、感染リスクの低減を相互認証できるシステムを提案する。本アプリを使うことで、各種イベントであれば参加者と主催者の、会議等の企業活動であれば組織同志の安心・安全環境を担保することによって、人の集まる各種社会経済活動の円滑な実施を支援する。 ○分野毎に個別企業・企業団体、業界団体、各組織に働きかけ ○京都リサーチパーク、けいはんなオープンイノベーションセンター、けいはんなプラザ他	1年 (5月WG開始、6月実証実験計画策定、～実証実験、2-3月第1次サービスプラン提示)	【所属】 産業情報部会 【役職】 副会長 【氏名】 則内健司 【電話番号】 090-4498-6469 【メールアドレス】 noriuchi@imtakt.co.jp
02-3	鈴田峠農園有限会社	実証・事業化WG	TYPE 3 (民一民)	3.環境、5.農林	「パッションフルーツのシェード型緑化とIoT緑化冷却システム」のフィールドでの実証実験を行い、実装に向けた検証をしたいため。	脱炭素型社会の推進のためには、快適性や生産性、安全性の維持・向上を図りながら継続的に節電を行う必要がある。窓等を植物で覆うことでの直射日光を遮り室内の気温を下げることでできるグリーンカーテン(都市緑化)の取組は、節電、ヒートアイランド緩和、熱中症対策に効果的である。弊社では、「パッションフルーツの移動式緑化(特許取得)」により、広い木陰が出来るシェード型緑化を短期間で形成し、併設する「IoT緑化冷却システム(国際特許取得)」により、気化熱で冷気の気流を作り、街を涼しくし都市のヒートアイランドを緩和できる遠隔操作システムの実証実験を「けいはんな記念公園(京都府精華町)」で実施したいと考えている。当システムの今後の展開(発展)の方向性及び効果的な連携をWGでは検討したい。	1年 (5月WG開始・実証実験計画策定、6月実証実験開始、2月検証)	【役職】 代表取締役 【氏名】 富麻謙二 【電話番号】 090-3016-2243 【メールアドレス】 suzuta@lime.ocn.ne.jp
02-4	シスコシステムズ合同会社 株式会社デンソー 株式会社アドリンク	実証・事業化WG	TYPE 2 (民一官) TYPE 3 (民一民)	1.観光、8.行政サービス、9.防災、10.感染症対策	現在、京都府内12カ所に設置しているパブリックデジタルサイネージの更なるコンテンツの充実およびサイネージ筐体のブラッシュアップなどが利用者の利便性と地域の活性化につながるものと考えております。つきましては、関心のある市町村と連携し、事業化を検討したいと思います。	現在、設置している12カ所のパブリックサイネージは総務省事業の補助金にて開かれておりますが、2024年3月をもって期限が終了します。その後の事業化のためには費用捻出をどのように行うかが検討課題となっており、いまより魅力的なパブリックデジタルサイネージを作成すること 現在、京都府内12カ所に設置しているパブリックデジタルサイネージの更なるコンテンツの充実およびサイネージ筐体のブラッシュアップなどが利用者の利便性と地域の活性化につながるものと考えております。つきましては、関心のある企業様のアイデアやソリューションを取り入れながら、事業化を検討したいと思います。	1年 (6月WG開始、10月まで意見、アイデア募集、12月まで事業拡充案件作成、5月まで実証検証)	【所属】 シスコシステムズ合同会社 戦略ソリューション事業開発本部 【役職】 【氏名】 菊田 邦秀 【電話番号】 090-9652-3281 【メールアドレス】 kkunihid@cisco.com
02-5	ソフトバンク株式会社	実証・事業化WG 【※昨年のデータ流通加速化WGの継続】	TYPE 3 (民一民)	11.その他(ビッグデータ活用)	昨今、データ駆動型社会の実現が求められている中、産学官が持つビッグデータの流通を加速させ、データに基づく課題の解決や新規ビジネス創出を図る方策を検討する必要があります。	京都ビッグデータ活用プラットフォーム会員やその他企業等からサンプルデータを提供可能なデータホルダーを開拓し、サンプルデータを収集する。収集したサンプルデータから、他のデータの掛け合わせによる新たなビジネスモデル構築の可能性やデータ活用展開の可能性等を精査し、データ活用型ビジネスモデルのイメージを事例化する。 産学官の垣根を超えた相互のデータ連携による価値創出の可能性の検証及びデータ流通加速化を目指す。<サンプルデータの提供等、データ活用を積極的に進める企業を募集する>	1年 (7月WG開始、サンプルデータ収集、9月データ事例化、11月公開WG、3月報告)	【所属】 ソリューションズエンジニアリング本部 【役職】 担当部長 【氏名】 東谷 次郎 【電話番号】 - 【メールアドレス】 jiro.higashitani@g.softbank.co.jp
02-6	株式会社村田製作所	実証・事業化WG	TYPE 2 (民一官)	2.健康/医療、7.教育、9.防災、10.感染症対策、11.その他(Society5.0)	教育施設の課題に対してSociety5.0の視点でアプローチできるシステムを開発したので、教育関係機関及び市町村を巻き込み、実証実験がしたい。 ・場所の提供-教育機関/施設・監修-大学の見識者 ・運用/メンテナンス-地元の方々(電気屋・シニア人材)など様々なレイヤーとの協力が不可欠、"感染予防"など早期に実用フェーズに移行すべき課題があるため、早期に活動を始めた。	SDGsの1つの施策である Society5.0 ではフィジカル(現実)空間とサイバー(仮想)空間の有機的な結びつきによる豊かな社会の実現が提唱されている。一方現状の教育現場では、以下課題がアナログ管理されていると考え、これらをIoT 商材を活用して教育現場での Society5.0= 京都府モデルとして世の中に発信したい。 「感染予防」：定時での換気対策 「学習効率Up」：学校環境衛生マニュアルに基づいた定時管理 「食料管理」：同上および HACCAP 「防犯」：監視カメラによる目視管理	1年 ※感染症予防に対して6月WG開始、8月全体計画策定、9月実証実験、12月検証、1月サービスプラン提案、3月	【所属】 事業インキュベーションセンター Pifaa 事業推進課 【役職】 マネージャー 【氏名】 岸下 慎吾 【電話番号】 080-9309-0499 【メールアドレス】 s_kishishita@murata.com
02-7	京なかGOZAN 京都大学 大阪成蹊大学 京都情報大学院大学	実証・事業化WG	TYPE 2 (民一官)	1.観光	産学連携で開発した、ユーザーのユーザーによるユーザーのための AI 観光マップ「京都観光地図2.0」を京都市内・周辺から府内自治体へ横展開するため。本サービスを通じて、府内の観光のデジタル化を促進させたい。連携する自治体・企業と共同して、AI学習・推薦モデルの構築やサービス実装に必要な予算を獲得することも目指す。	京都府内のいずれの観光エリアにおいても、新型コロナウイルスの影響がまだまだ色濃く残っている。最近、地元・近隣住民を呼び込もうとする「じも旅」の動きが着目されている。エリアごとの魅力発信とともに、観光客が少しずつ戻りつつある京都市内から府内の各エリアに誘導する仕掛けが必要である。そこで、AIを活用し、観光客の分散にもつながるおすすめルート・スポット推薦のサービスを提案する。本WGを通じて、観光スポット写真などモデル改善に必要なコンテンツも収集する。 希望する自治体：宇治市様、富津市様、京丹後市様、福知山市様など	1年 (6月WG開始、7月～11月AI学習用の画像データ等を収集、AI学習・推薦モデルの構築、12月～2月：AI学習・推薦モデルの改善、京都観光地図2.0の改修)	【所属】 京なか株式会社 【役職】 代表取締役 【氏名】 桂田 佳代子 【電話番号】 080-4562-5300 【メールアドレス】 katsurada@kyonaka-gozan.kyoto
02-8	シンク・アンド・アクト株式会社	実証・事業化WG 【※昨年の地域課題WGの継続】	TYPE 2 (民一官)	7.教育、11.その他(地域コミュニティ)	市町村の現状に直面しつつも、新しい地域の未来づくりに関心があり、具体的なアクションを取る気概のある次代の担い手同志が繋がりが、必要なスキルを得る地域教育基盤(地域関係者・事業者、市町村担当者、次代の担い手間の連携支援)と、3年間の京都スマートシティ推進協議会での事業経験で把握している為。	市町村の現状を正確に把握することが大前提。その上で、同WGで具体的に取り組むソリューションは、以下の3点。 ①地域の現場に於ける次代の担い手(プレイヤー)の育成 ②地域関係者・事業者、市町村担当者、次代の担い手間の連携支援 ③地域に必要な新しいデータ収集分析やIoTツールを活用して行う、複数のモデル実証づくり	1年 (5月ヒアリング開始、6月から各担い手毎のモデル実証PDCAを順次開始、10月第1回WG実施、11月モデル実証PDCA継続、2月第2回WGの実施)	【氏名】 澤田陽剛 【電話番号】 075-746-2845 【メールアドレス】 info@thinkandact.jp
02-9	京都府デジタル政策推進課	実証・事業化WG 【※昨年のDiseaseX感染症対策WG継続】	TYPE 1 (官一民)	10.感染症対策	R3年度に立ち上げた「Disease X感染症対策WG」について引き続き活動を行う。 R4年度は内閣官房「下水サーベイランスの活用に関する実証事業」に応募の上、資金を獲得し、下水関係者、人流関係者及び研究者等の交流・議論を深めることで、各自が保有するデータの信頼性向上に向けた相互評価や解析アプローチの高度化、感染予測モデルの構築に取り組む。	現状の感染症対策は、新型コロナウイルスを例にすると感染症の陽性者数、重症者数及び病床使用率等の数値から感染が拡大していることを行政が判断し、様々な措置を講じているが、PCR検査で陽性と判断された人数しか狙えず、市中での無症候者も含めた真の感染規模が把握できないといった課題を抱えている。本WGでは、上記の課題を解決するため、下水サーベイランスを用いて地域全体の感染拡大/収束や実株発現の兆候を早期に捉え、感染症の流行に影響を与える要因データ(人流、CO2濃度、ワキチン接種率等)を加味し、AI解析することで高精度なSARS-CoV-2感染者数予測モデルの構築を目指す。ひいては、その予測モデルがWithコロナ社会に貢献する一つの施策にとどまらず、Afterコロナでも必要な感染症対策の社会インフラとなることを目指す。 【朝Adinte、朝AdvanSentinel、朝アナテック・ヤナコ、朝COGNANO、朝GOMO、堀野製薬製、朝島津製作所、朝島津テクノリサーチ、京都大学附属流域環境総合環境質研究センター、高知大学、京都市】	1年 (5月：実証事業への応募、7月～1月：実証、2～3月：とりまとめ、その他、年度中にWG内での勉強会や公開セミナーを実施)	【役職】 副主査 【氏名】 池内翠子 【電話番号】 075-414-5677 【メールアドレス】 digital-seisaku@pref.kyoto.lg.jp